

【国語－１】

実践事例：小学校１年生 ／実施機関：日野市教育委員会（東京都）

●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

1. 漢字を読むこと。
2. 音読すること。
3. 文面から物事の様子などをイメージすること。
4. 書くこと。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）  
その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと  
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること  
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること  
学習（計算、推論等）すること その他

- ・音読することに苦手意識があり読みたがらない。  
・文章から登場人物の心情をイメージすることが難しい。  
・書くことを避けたがる。

2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期 10月

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

実施者：担任及びリソースルーム担当

方法：担任（チェックシートの記入）

リソースルーム担当（アセスメントテストの実施によるつまずき把握）

※リソースルーム

通常の学級に在籍し、発達障害等により特定の教科学習に困難を示している児童生徒に対し、個別の補充指導等を行う日野市の独自事業である。

### 3. 指導内容

#### (1) 教科における学習上のつまずきの内容

文章を読むこと、書くこと

#### (2) つまずいている背景・原因

- ・形を正しく書く力に弱さがある。
- ・文字を音に変換する力に弱さがある。
- ・内容理解に弱さがある

#### (3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

##### (i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・文を一文ずつにして（センテンスカード）提示することで、文の内容に着目させる。
- ・動画や実物大の模型を使ってイメージを捉えられるようにする。
- ・はじめに教師の範読を聞かせる。

##### (ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・弱さのある音の入ったすぐろくやカードにより音を聞き分ける力や操作する力を伸ばす学習をした。
- ・事前に振り仮名をふり、読む練習をした。

#### (4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

事前に読みの練習をしたことで以前より自信をもって音読することができた。

センテンスカードによる読みの工夫は、集中する文が短いことで読みやすく内容が捉えやすかった。A児だけでなく学級全体も集中できていた。

## 【国語－２】

実践事例：小学校２年生 ／実施機関：日野市教育委員会（東京都）

### ●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

1. 分かりやすい説明の工夫を読み取るにつまずく。
2. 時を表す言葉に気付くことができない。
3. 書かれている様子や理由を読み取ることができない。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）  
その他

##### (2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと  
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること  
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること  
学習（計算、推論等）すること その他

- ・文章の内容理解に課題があり、わかりやすい説明をするために筆者はどのような工夫をしているかを見つけれたり読みとったりすることが難しかった。  
・時を表す言葉に自ら気づくことが難しかった。

#### 2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期 9月

##### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

実施者：担任

方法：観察とチェック

#### 3. 指導内容

##### (1) 教科における学習上のつまづきの内容

- ・文章から内容を理解すること
- ・順番や時を表す言葉を理解すること

##### (2) つまづいている背景・原因

- ・時制を理解する力の弱さ
- ・文の内容を吟味する力の弱さ

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・最初に作業の順番を確認することでカードの作り方を読み取った。
- ・とび出したり、うごいたりするしかけのあるカードを実際に作り、その後本文を読んだ。
- ・つまづいた原因を見つけ、カードの作り方を確認し、筆者の説明の工夫を読み取った。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・事前に読む練習をした。
- ・授業の前に時を表す言葉を確認し、マークをした。
- ・一文を読んで内容を理解する練習問題をした。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・最初に作業の順番を確認したことがよかった。
- ・しかけカードを実際に作り、その後、しかけ文を読んだことは読み取りやすい方法だった。
- ・つまづいた原因を見つけ、カードの作り方を確認したことで、筆者の説明の工夫を読み取ることができた。
- ・事前に読む練習をしたり、時をあらわす言葉にマークしたりしたことで、本人が授業に自信を持って臨む様子が見られた。
- ・文章の内容理解問題の演習は一定の効果が見られた。

## 【国語－3】

実践事例：小学校6年生 / 実施機関：日野市教育委員会（東京都）

### ●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

1. 文章全体の構成を意識して読むこと
2. 助詞の意味、文の時制を把握すること
3. 指示語の働き
4. 説明文・物語文の、内容理解
5. 物語文の心情理解

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

- 自閉症  情緒障害  LD（学習障害）  ADHD（注意欠陥/多動性障害）  
 その他

##### (2) 子供の困難さ

- 見ること  聞くこと  話すこと  読むこと  書くこと  動くこと  
 コミュニケーションをすること  気持ちを表現すること  
 落ち着くこと・集中すること  概念（時間、大きさ等）を理解すること  
 学習（計算、推論等）すること  その他

- ・人の気持ちをつかむことに弱さがあり、心情理解に苦手さがある。
- ・質問の意図と回答がずれる。
- ・他動傾向があり、座り続けることは苦手である。
- ・聞くことはできるが書くことを好まない。

#### 2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期 5月

##### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

実施者：担任

方法：通級による指導の担当教員によるつまづきの把握

基礎学力チェック（読み、書き）単元レッディネスチェック

#### 3. 指導内容

##### (1) 教科における学習上のつまづきの内容

- ・文字を目で追って文章の内容を理解すること。
- ・イメージすることや登場人物の心情を読み取ること。
- ・文章構成を捉えること。

(2) つまづいている背景・原因

- ・文章の読みレベルではなく、文字や単語を読むレベルでのつまづきがある。
- ・不注意による、読み間違い、捉え違いがある。
- ・イメージすることや心情理解に苦手さがある。
- ・書くことに苦手さがある。

(3) (1) に対して実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

(授業における全体指導)

- ・実験を体験させたり見せたりして具体的に想像できるようにした。
- ・図や絵、写真などで示すようにした。
- ・4つのタイトルを短冊にして文章の構成を考えさせた。
- ・実験を体験させたり見せたりして具体的に想像できるようにした。
- ・筆者の主張を捉えるために、ペアで相談してから全体で発表できるようにした。
- ・授業で扱う部分の文章や設問は、音読を多くした。

(授業における個への指導)

- ・1人で読む作業はできるだけ制限し、思考する作業にだけ専念できるよう時や場所を表す言葉に着目させながら、4つのタイトルを短冊にして文章の構成を考えさせた。
- ・板書を写すことはさせず、考えること、話すことに専念させた。

(ii) 個別指導について(取り出し指導、通級による指導との連携など)

- ・単元に入る前の音読練習。→段落ごとに短冊にした教材文を使用した。
- ・語句の意味の確認。
- ・説明文の構成の確認。→魚の絵を3分割し、頭括型、尾括型、総括型を教えた。
- ・中心文の探し方。→各段落が何文で構成されているかを数えさせ、中心となる文を考えさせ、マーカーを引かせる。
- ・要点、要約、要旨の意味の説明をあらかじめしておいた。
- ・要約のまとめ方の指導→中心文(マーカーを引かせた文)をつなげて読ませる。
- ・会話のコツを教えた。
- ・「いつ」「どこ」等のカードを机の上に置いて、整理して話すことができるようにした。
- ・補充指導で小さい短冊ごとの教材文は、手元で操作ができるようにした。
- ・魚の絵を使って構成の学習をした。
- ・中心文、要点、要約を書くコツをつかませる学習をした。

(4) (3) の効果・評価(児童生徒の様子や変容および授業の評価)

- ・図や絵、写真などで示すようにして言葉だけでなく具体的にイメージできるようにしたことは効果的であった。
- ・難易度のある文章だが、4つのタイトルを短冊にして文章の構成を考えさせ、実験を体験させたり見せたりして具体的に想像できるようにしたことで、つまづきのあるA児だけでなく学級全体の子供たちにとってもイメージ出来てよかったと思われ集中

していた。

- ・ペアで相談してから全体で発表できるようにしたことで、A児の手も上がった。
- ・短冊にして文章の構成を考えさせたことは、本人にとって思考しやすく集中できる様子が見られた。
- ・事前の補充指導をしたことで、在籍学級での参加意欲の向上が見られた。
- ・補充指導で小さい短冊ごとの教材文は、手元で操作ができるので、文の構成を理解するのに役立った。
- ・魚の絵を使った構成の学習は、文章構成をイメージするのに効果的であった。
- ・中心文、要点、要約を書くコツをつかませることができた。

## 【算数】

実践事例：小学校3年生 / 実施機関：日野市教育委員会（東京都）

### ●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

1. 不注意
2. 乗法の立式

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

- 自閉症  情緒障害  LD（学習障害）  ADHD（注意欠陥/多動性障害）  
 その他

##### (2) 子供の困難さ

- 見ること  聞くこと  話すこと  読むこと  書くこと  動くこと  
 コミュニケーションをすること  気持ちを表現すること  
 落ち着くこと・集中すること  概念（時間、大きさ等）を理解すること  
 学習（計算、推論等）すること  その他

- ・ 計算問題で落ち着いてやるとわかるが誤答が多い。  
・ 乗法で答えるところを、全ての数を指で数えている。

#### 2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期 6月

##### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

実施者：担任及びリソースルーム担当

方法：担任（レディネスチェック）

リソースルーム担当（アセスメントテスト）

#### 3. 指導内容

##### (1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・ 文章題を読んでかけざんの立式をすることが難しい
- ・ 計算問題で誤答が多い

##### (2) つまずいている背景・原因

- ・ 乗「×」の事象をイメージする力の弱さ
- ・ 文章に適した立式をする力の弱さ
- ・ 不注意



(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

(授業における指導)

- ・ドット図を封筒に入れておき、左端から少しずつ見せ、児童からの「あれ？」という違和感を引き出し、学習課題に興味を持たせるようにした。
- ・「分けてたす」「埋めてひく」「同じ数にならんでいるところをさがす・つくる」といった発言を板書して考えやすくする。
- ・式の意味を図と結び付けて説明するのにペアで伝え合い、その後全体で共有した。

(個への指導)

- ・かけ算の式になる部分を手で数え直させる。
- ・「同じ数にならんでいるところはどこかな？」と問いかけてかけ算が使えることに気付かせる。

(ii) 個別指導について (取り出し指導、通級による指導との連携など)

乗法で求められる文章問題を絵にしたり、理由を確認したりした。  
計算の見直しに、九九表を手元において練習した。

(4) (3) の効果・評価 (児童生徒の様子や変容および授業の評価)

- ・導入の工夫では、興味を持って集中していた。
- ・ペアでの教えあいをする中で、自分なりに気づくことができた。
- ・1対1の取り出し指導で簡単な問題を絵にして考えることは有効だった。

## 【数学－１】

実践事例：中学校１年生 ／実施機関：日野市教育委員会（東京都）

### ●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

1. 文章題を解くことはできるが、解が問題に適しているか判断することができない。
2. 一見すると問題に即した答えとみなすことができるが、日常生活ではありえない数値であるということを見抜くことができない。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

- 自閉症  情緒障害  LD（学習障害）  ADHD（注意欠陥/多動性障害）  
 その他

##### (2) 子供の困難さ

- 見ること  聞くこと  話すこと  読むこと  書くこと  動くこと  
 コミュニケーションをすること  気持ちを表現すること  
 落ち着くこと・集中すること  概念（時間、大きさ等）を理解すること  
 学習（計算、推論等）すること  その他

- ・ 計算は解くことはできるが、文章題で解が問題に適しているか判断することができない。  
・ 一見すると問題に即した答えだが、日常生活ではありえない数値であるということを見抜くことができない。

#### 2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期 9月

##### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

数学担任によるレディネステスト

#### 3. 指導内容

##### (1) 教科における学習上のつまづきの内容

- ・ 文章題で解が問題に適しているか判断すること
- ・ 問題作りで日常生活ではありえない数値であることに気づくこと

##### (2) つまづいている背景・原因

- ・ 時制を認識することの弱さ
- ・ ワーキングメモリーの弱さ
- ・ 推論する力の弱さ

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・ 取り組み方を「個人」「グループ」「ヒントをもとに教師と取り組む」の3つから選べるようにした。自分がどのような学び方をすれば一番理解できるか、最も意欲的に授業に取り組めるのかということを考える活動を取り入れた。
- ・ ペアやグループ活動を通して、自ら考えたことを伝え合ったり、わからないことを互いに教え合ったりする活動を取り入れた。
- ・ 個への指導は机間指導で助言した。
- ・ 過去のノートや教科書を利用するよう助言した。
- ・ 文章化できない場合は、口頭で述べさせ、書き言葉にできるように支援した。
- ・ 段階ごとのヒントの準備をした。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・ ステップ教室・リソースルームで文章題の立式を練習した。
- ・ 時をあらわす言葉を確認した。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・ 取り組み方を選択する場面で、自分に合った取り組み方を選択することができた。
- ・ 次時において、本時の内容を生かしながら、方程式の文章題の作成ができた。

(効果があつた具体的な指導方法)

- ・ 過去のノートの利用や教科書の利用。(継続して学び方の学習をしている成果)
- ・ 生徒が取り組み方を選択する。(生徒が意欲的に授業に参加する)
- ・ 授業外でつまずきに対する個別の指導。(休み時間やリソース・ステップ教室での指導)

## 【数学－２】

実践事例：中学校１年生 ／実施機関：日野市教育委員会（東京都）

### ●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

1. 板書をノートに写すことがゆっくりでなかなか進まない。
2. 説明を聞いて理解しても、問題を解くときに分からなくなってしまう。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）  
その他

##### (2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと  
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること  
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること  
学習（計算、推論等）すること その他

- ・簡単な図形の合同条件を記入する際、見通しが無いまま等しい部分のみ記入してしまい、合同条件との整合性も取れないため混乱してしまう。
- ・書くことに時間がかかり、ほかの事が考えられない状態になる。

#### 2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期 ５月

##### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

実施者：教科担当及び心理士

方法：教科担任（チェック）

心理士（生徒観察）

#### 3. 指導内容

##### (1) 教科における学習上のつまづきの内容

- ・ノートをすばやくとること
- ・問題を読み、内容をイメージすること

##### (2) つまづいている背景・原因

- ・書くことの苦手さ

- ・文章の内容理解の弱さ
- ・短期記憶の弱さ

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・使用する合同条件をカードにして掲示した。
- ・板書に考えるためのキーワードを示す。
- ・考えをペアやグループで話し合って共有する。
- ・考えることに集中させるために、A児には書くことを求めなかった。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・リソースルームでの取り出し指導で三角形の合同条件の復習をした。
- ・机間指導でヒントを与えた。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・考えることに集中させるよう黒板を写さなくてもよいことにし、必要な図を与えて考えさせたことで集中できていた。
- ・ペアやグループでの話し合いでヒントをもらい考えることができた。

## 【外国語】

実践事例：中学校1年生 / 実施機関：日野市教育委員会（東京都）

### ●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

1. 文法理解、それを用いた言語活動に不安をもっている。
2. 「メモのまとめ方」がわからない。
3. 自分が言いたいことと、表せる英語表現にギャップがある。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

自閉症  情緒障害  LD（学習障害）  ADHD（注意欠陥/多動性障害）

■ その他

##### (2) 子供の困難さ

見ること  聞くこと  話すこと  読むこと  書くこと  動くこと

コミュニケーションをすること  気持ちを表現すること

落ち着くこと・集中すること  概念（時間、大きさ等）を理解すること

学習（計算、推論等）すること ■ その他

- ・身近な有名人についてどのように説明するかわからず、英語の言語活動に苦手意識を持っている。
- ・メモをまとめて表現するときに「メモのまとめ方」がわからない。
- ・自分が言いたいことはあるが、英語で表現することが難しい。

#### 2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期 6月

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

英語担当によるレディネステスト

#### 3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・英語での言語活動
- ・メモをすること

(2) つまずいている背景・原因

英語での記憶の苦手さ

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・ ペアでやり取りする前に全体でやり方のモデルを示し、言語活動をしやすくした。
- ・ テーマとする有名人の写真を拡大して注目させ、全体で思いつくことを共有した。
- ・ 対象生徒への指導では机間指導でヒントを与えた。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・ リソースルームで音読の練習をした。
- ・ リソースルームでマッピングシートの書き方の練習をした。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・ 事前にリソースルームで予習的学習をしたことで、いつもより自信を持ってペアと言語活動ができていた。
- ・ 全体でやり方を共有してからはじめたことは対象生徒だけでなく他の生徒にもよかった。